

報道関係各位

2022年10月31日
株式会社 LIXIL

LIXIL 2023年3月期第2四半期決算（IFRS）

上期は前年同期比で増収減益

- 困難な事業環境下において製品の安定供給に努め増収も、想定以上の急激な円安進行と資材・部品価格の上昇加速、物流コスト上昇影響により減益
- 急激な円安進行、資材価格の上昇加速、物流コスト上昇影響、米中の経済減速をふまえて通期業績予想を下方修正

株式会社 LIXIL（以下 LIXIL）は本日、2023年3月期第2四半期の決算を発表しました。

LIXIL 社長 兼 CEO 瀬戸欣哉のコメント

「2023年3月期上期は、想定以上の急激な円安の進行と資材・部品価格及びエネルギー価格上昇によるコストの増加、物流の混乱によるコスト増に加え、米国における大幅な金利上昇を背景とした需要の軟化、中国の不動産市況の低迷により、前年同期比で減益となりました。下期においては、価格改定の追加施策実施と間接費の効率化による効果は期待できるものの、上期のコスト増への対応が継続するため、通期の業績予想を下方修正しました。持続可能な利益成長に向けて、引き続き、迅速な価格の適正化と固定費の削減を推進します。一方で困難な状況においても、製品の安定供給に努め、増収となりました。国内においては、エネルギーコストの上昇と環境への配慮から、断熱商品への需要が高まるだけでなく、政策面でも後押しが期待出来る状況になりつつあります。海外では機動的なサプライチェーンの構築を継続的に進めることで安定供給を実現し、戦略商品の拡販を通じて利益率の改善に取り組んでまいります。また、将来性のある新規事業を育て、製品やサービスを通じて社会や環境課題の解決に貢献することで、持続的な成長を実現します。先日発表した、廃プラスチックと廃木材を融合した循環型新素材『レビア』は、こうした取り組みの一環であり、舗装材をはじめ幅広い用途へと利用を拡大していきます。LIXIL は、今後もサステナブルな住まいと暮らしの実現に取り組むことで、脱炭素化と循環型経済への移行に貢献してまいります。」

➤ 決算の概要（第2四半期累計）

売上収益

2023年3月期上期（6か月累計）の連結売上収益は、困難な事業環境下において製品の安定供給に努めたことで、前年同期比5.2%増の7,327億円となりました。国内事業の売上は、1.2%増の4,816億円でした。リフォーム売上構成比は、0.9pt上昇して、41%となりました。海外事業の売上は、前年同期比12.6%増の2,577億円で、為替の影響を除くと0.4%上昇しました。

事業利益

事業利益は、想定以上の急激な円安の進行と資材と部品・エネルギー価格の上昇の加速、米国における大幅な金利上昇を背景とした需要の軟化による顧客の在庫調整、中国における不動産市況の低迷により、311億円減の62億円となりました。事業利益率は、4.5pt悪化し、0.8%となりました。

非継続事業を含む親会社の所有者に帰属する最終四半期利益

上期の最終四半期利益は、主に事業利益の減少により、前年同期比220億円減の37億円でした。

期末配当予想

一株あたりの年間配当予想は90円を維持します。中間配当は45円を決議しました。

2023年通期業績予想

上期のコスト増の影響が下期も一部残ることと、米国と中国における経済の減速を踏まえ、期初計画を下方修正し、売上収益は1兆5,600億円、事業利益は420億円、最終四半期利益は250億円を見込んでいます。

事業・地域別の業績

水まわり事業を手がけるLIXIL Water Technology (LWT) の日本事業は、価格改定の効果と快適性の向上を目的としたリフォーム向けの堅調な売上に支えられ、上期の売上は前年同期比0.9%増の2,016億円となりました。事業利益は、価格改定と好調な中高級価格帯の製品およびリフォーム向け売上が寄与したものの、資材価格の高騰が加速したことにより、前年同期比で26.4%減の108億円となりました。事業利益率は2.0pt減少して、5.4%となりました。

LWTの海外事業の上期の売上は、米国と中国で経済減速の影響を受けましたが、円安の影響により円貨ベースでは前年同期比で10.8%増となる2,445億円、為替の影響を除くと2%の減収となりました。事業利益は、物流の混乱の影響とエネルギー価格の上昇などによりコストが増加し、前年同期比で62.3%減の98億円となりました。事業利益率は7.8pt減少して4.0%となりました。

アメリカ地域では、金利の大幅な上昇により住宅市場が減速して顧客の在庫調整が行われた結果、需要が軟化し、上期の売上は、現地通貨ベースでは、前年同期比で8%の減収となりましたが、円貨ベースでは増収となりました。欧州・中東・アフリカ地域 (EMEA) の売上は、現地通貨ベースでは前年並みとなりましたが、円貨ベースでは増収となりました。同地域の第2四半期の売上は、円貨・現地通貨ベースともに、前四半期比で微増となりました。同地域に第1四半期に新設した物流センター2拠点が稼働を開始し、一部製品の供給難の解消に向けて、着実に取り組みを進めており、下期での正常化を図ります。中国では、不動産市況の低迷により、現地通貨ベースで13%の減収となりましたが、円貨ベースでは増収となりました。GROHE製品が好調でブランドミックスは良化しました。アジア太平洋地域においては、ベトナム、インド、タイが牽引して、経済活動の回復と小売りの伸長に支えられ、現地通貨ベースで28%の増収となりました。同地域では、全販売チャネルにおいて、計画を上回る売上伸長を継続しています。

住宅建材事業等を展開するLIXIL Housing Technology (LHT) は、好調な海外事業と住宅性能・快適性の向上を目的とした国内のリフォーム需要が堅調で、上期の売上は3.1%増の2,932億円となりました。事業利益は、上期の価格改定と好調なリフォーム向け高性能サッシの売上が寄与したものの、主に急激な円安の進行の影響により、前年同期比で67.8%減の60億となりました。事業利益率は4.5pt減の2.0%でした。ビルディングテクノロジー事業 (LBT) 及び住宅・サービス事業等 (H&S) を除いた、従来のセグメント区分におけるハウジングテクノロジー事業の売上収益は2,347億円で、事業利益は53億円、事業利益率は2.3%となりました。下期は、価格改定と固定費の削減により利益率の改善を図ります。

※適時開示資料は[こちら](#)から、新商品のリリース情報は[こちら](#)からご覧ください。

About LIXIL

LIXIL は、世界中の誰もが願う豊かで快適な住まいを実現するために、日々の暮らしの課題を解決する先進的なトイレ、お風呂、キッチンなどの水まわり製品と窓、ドア、インテリア、エクステリアなどの建材製品を開発、提供しています。ものづくりの伝統を礎に、INAX、GROHE、American Standard、TOSTEM をはじめとする数々の製品ブランドを通して、世界をリードする技術やイノベーションで、人びとのより良い暮らしに貢献しています。現在約 55,000 人の従業員を擁し、世界 150 カ国以上で事業を展開する LIXIL は、生活者の視点に立った製品を提供することで、毎日世界で 10 億人以上の人びとの暮らしを支えています。

株式会社 LIXIL（証券コード: 5938）は、2022 年 3 月期に 1 兆 4,286 億円の連結売上高を計上しています。

LIXIL グローバルサイト：<https://www.lixil.com/jp/>

LIXIL Facebook（グローバル向け）：<https://ja-jp.facebook.com/lixilglobal/>

LIXIL Facebook（日本国内向け）：<https://www.facebook.com/lixilcorporation>